



島根大学医学部附属病院広報誌

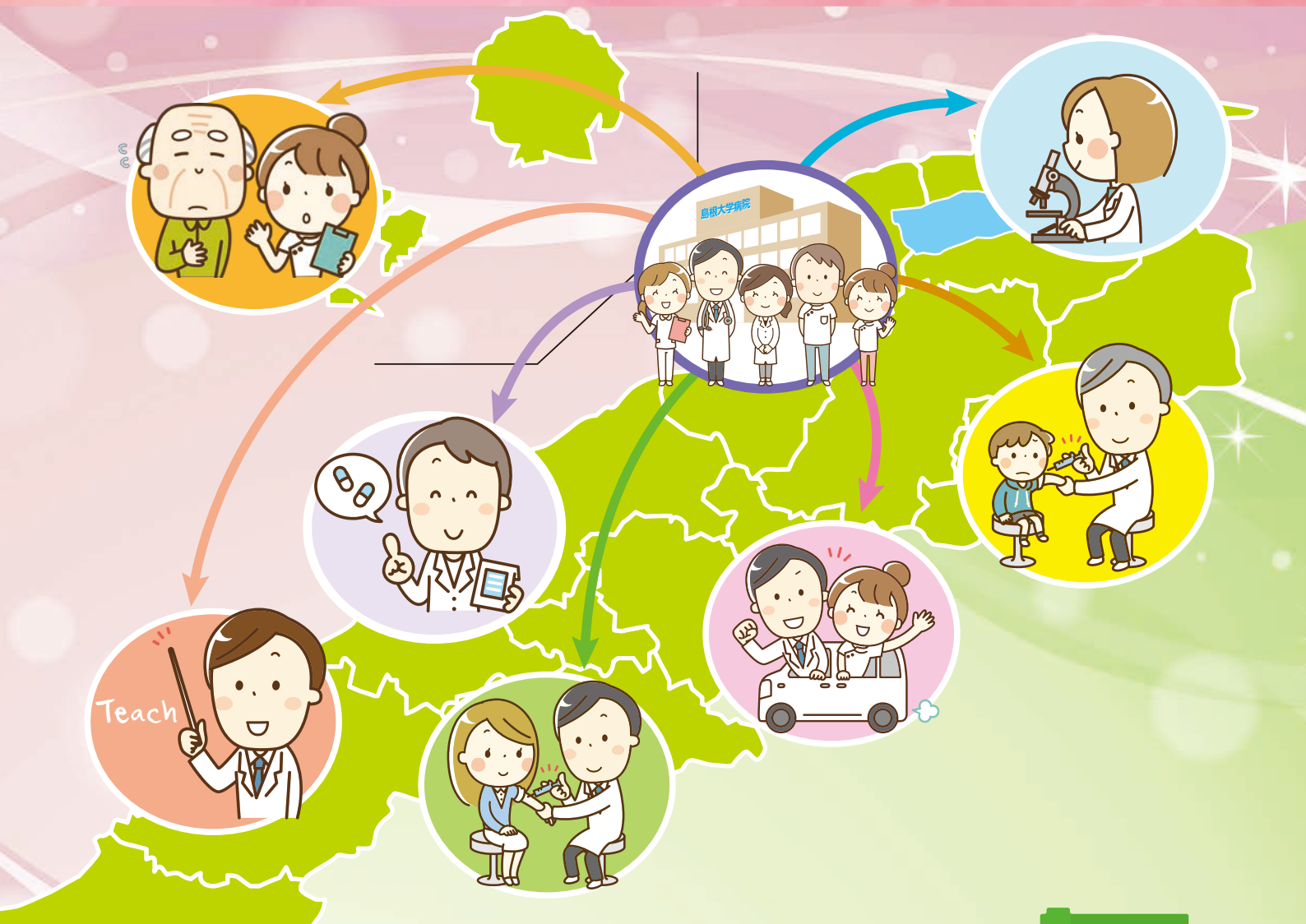
しろうさぎ

S H I R O U S A G I



TAKE FREE

ご自由にお持ち帰りください



Contents

特集 Special issue

『がんばっています— 地域で活躍する島根大学病院の職員たち』

インタビュー

- 消化器内科 医科医員 …………… 岸 加奈子
- データセンター センター長 …………… 椎名 浩昭
- 総務課 人事管理担当 課長補佐 …………… 渡部 洋二
- クリニカルスキルアップセンター センター長 …………… 狩野 賢二
- 総務課 企画調査係 係員 …………… 今若 修子



- * プロジェクトM
- * 在宅医療を支えます
～レスパイト入院をご存知ですか～
- * 私のここだけの話
- * 留学生の国自慢
- * イベントなどのお知らせ
- * ニュース&トピックス

都市部から離れているため、十分な治療が受けられないなど、医療格差が生じることがないように、島根大学病院からは、多くの医師が県内各地の病院に派遣され、診療をしています。地域に派遣された医師たちは、いつでも最善を尽くし、心をこめて診療を行っています。

地域医療—身近で安心できる治療を提供します

患者さんとの心のつながりを大切に—
診療所で診療し、学び、励まされています

消化器内科 医科医員 岸 加奈子

おったちさとかた
乙立里方診療所（以下、診療所）で診療をせっらっしやる
岸加奈子先生に地域医療に関するお話を聞きました。



医師になったきっかけ

私は出雲市出身で、島根大学医学部を卒業しました。家族に医療関係者が多く、小さな頃から医師になりたいと思っていました。身近なところに祖父母が住んでいることもあり、自然に地元の医療機関で働くことを考えました。2年の初期研修を終え、今年度が3年目で、普段は島大病院の消化器内科で勤務しています。

診療所への派遣

診療所へは、出雲市から委託を受け、大学病院から内科医師が派遣されています。当番制で消化器内科は週1回の派遣です。科の中でもローテーションがあり、私は月1～2回の担当です。

診療所と大学病院の違い

診療所では、病状は比較的安定されている患者さんが定期的に受診されています。ときどき、インフルエンザなどで受診される方もおられます。一方、大学病院では、主に入院患者さんを受け持っており、急性期の患者さん、専門性の高い疾患の患者さんを診察しています。

心がけていること

ここでだけというわけではありませんが、診療所は比較的、高齢の方が多いため、患者さんとお話するときに、しっかり顔を見て、わかりやすい言葉や親しみやすい声がけをするように意識しています。診療所では患者さんをゆっくり時間をかけて診ることができるので、雑談もしたりして、リラックスした雰囲気です。私は近々産休に入る予定ですが、私の体調を家族のように気にかけてくださる患者さんもいらっしゃいます。

地域医療への思い

診療所での診療は、専門分野だけではなく、総合的なことも学ばせていただけるので、とても恵まれていると思います。これからの目標としては、大学病院での勤務では自分の診療科の専門を決め、それをしっかりと学びたいです。そして、学んだことを地域医療に還元していきたいです。



おったちさとかた

乙立里方診療所 診療科目：内科

診療日時：月曜日～金曜日 14:00～18:00 土曜日 9:00～12:00

乙立里方診療所は一日約5人～10人の患者が受診され、大社町や雲南市掛合町からも受診に来られることもあるそうです。小さなお子さんを持つ親御さんも、近くに診療所があり、喜ばれているとのこと。

看護師2名が交代で勤務され、薬は診療所で受け取ることができます。

この日は、本学医学部の5年生が臨地研修の授業で2名来ていました。問診の仕方、血圧の計り方など、総合的な診察の仕方について、岸先生からしっかりと学んでいました。



島根県では医師不足と医師の地域偏在が大きな問題となっています。島根大学病院は、このような問題を解消し、当院のもつ医師派遣機能を十分に発揮するため、平成28年3月に「医師派遣検討委員会」を設置しました。委員会では、医師派遣に関して、データ等に基づいた分析を行った上で審議し、医師派遣を決定します。

公正で透明性の高い医師派遣を

データセンター センター長 しい な ひろ あき 椎名 浩昭 教授



「医師派遣検討委員会」について教えてください。

医師派遣については、これまでは、各診療科に任せており、県内の医師数の分布状況などの全体像を見ずに派遣していました。しかし、今、超高齢社会になり、医療・介護需要が増加していく中、これではいかんと、『需要と供給に基づいた、公正で透明性の高い医師派遣をしよう』という病院長の旗振りのもと、「医師派遣検討委員会」が設置されました。

島根県の医師派遣における島大病院の役割は？

大学病院は医療をすればいいというわけではなく、しっかり医師を育てて派遣するのが大きな責務です。

もともと島根県は医師数が少ないのですが、県西部、隠岐は人口も少なく、総合病院も少ない。医療の地域格差が生じるのを防ぐためには、県全域で必要な医師数を確保しなくてはなりません。適材適所の派遣を行うためには、客観的な判断材料となるデータ活用が非常に大きな役割を果たします。データセンターでは、県のデータから「必要医師数」を分析し、人件費をもとに病院の運営に関わる様々な要素を加味して「派遣可能な医師数」を算出します。「医師派遣検討委員会」ではこれらのデータを資料として審議し、島根県の「**地域医療構想**」に沿った派遣を進めています。

「地域医療構想」

団塊の世代といわれる人たちが75歳になり、医療・介護需要が最大化する2025年に向けた将来の医療提供体制に関する構想。都道府県が計画する。

島根大学病院の医師派遣について

ネットワーク・人的交流をマネジメントする地域医療のキーマン

総務課 人事管理担当 課長補佐 わたなべ よう じ 渡部 洋二



どのような仕事をされていますか。

出雲キャンパスのすべての職員の選考・採用・評価・給与関係の事務を行っています。また、育児休業・介護休業など福利厚生の制度を設計し、利用を勧め、学内の教員選考や学外への医師派遣に関わる兼業の事務も司っています。2,000人近い職員を適材適所へ配置し、労務管理していくのは、かなり神経を使う仕事です。

県内の医師不足・地域偏在の解消のため、島大病院はどんなことをしていますか。

「医師派遣検討委員会」は、しまね地域医療支援センターおよび島根県健康福祉部からの外部委員も含めた14名で構成され、毎月開催します。県内病院からの医師派遣要請を受け、客観的な各地域における必要医師のデータに基づいて、診療科ごとの派遣人数等を検討し、審議しますので、より透明性・客観性・公平性が保たれるようになりました。

委員会で派遣が妥当と判断した場合は、対象の診療科

に打診し、医師本人の同意に基づき、派遣を決定します。このような取り組みは全国的にも珍しいのではないかと思います。

どのような思いでこの仕事に取り組まれていますか。

医師派遣は、医療の地域格差をなくすというのが目的で、大学と自治体が一体となって行う意義があると考えています。各病院の事務担当者ややりとりする中でも、命に関わることですから、地域の必死な願いが伝わってきます。病院の先生方、事務担当者双方の心情を酌みながら、丁寧に調整をしていくことを心がけています。難しいがゆえにやりがいがある仕事です。

今後はどのような派遣のあり方が望まれますか。

現在のところ、非常勤の医師派遣では、要望に8～9割の対応ができています。今後も県内病院や県の健康福祉部と綿密に連絡をとり、リアルタイムに情報をキャッチし、地域のニーズに沿った適材適所の派遣が行えるといいと思っています。

シミュレータと一緒に 西へ北(隠岐)へと出かけます!

クリニカルスキルアップセンター センター長 狩野 賢二 講師



クリニカルスキルアップセンターでは、主に医学生と看護学生・研修医・附属病院の医療者が学びます。10年前、県内で「身体診察」の研修を行っているところはほとんどありませんでしたが、年々その重要性が認識され、薬剤師・歯科医・療法師・検査技師・栄養士・介護福祉士の受講者も年々増加しています。2017年は全体で約9,000名、このうち約2,900名が学外からの受講でした。

隠岐、益田、津和野などの遠方へは定期的に大学から出向いて医学教育をサポートしています。出張研修は、終業後の5時半以降に始めることが多いです。遅い時間ですが、みな熱心に学んでいます。研修を通して、「いままで古い慣習でなんとなく手技を行っていた」と気づく受講者もいます。そのときは、良くない理由を説明し、納得してもらってから正しい手技を習得していただきます。

本学のインストラクター 3人で県内の希望者全員を教えることはできないので、「地域医療インストラクター養成コース」(毎月1回開催・1年間)を開設し、修了者が地域で指導できるようにしました。教えることは一番勉強になります。知識・技能は教えることで90%定着するという報告もあります。

他に、「ネットワークコース」も開設し、学外にシミュレータを貸し出し、複数の施設がまとまって研修を自主的にできるようにしています。

一番の悩みは、シミュレータ人形が高価で重く、持ち運びが大変なことです。一人で車に乗せて出張に行くと、助手席に座っている人形に、みなさん『ギョッ!』とされます(笑)。

忙しく体を酷使していますが、充実しています。休日を楽しみに頑張っています(笑)。 クリニカルスキルアップセンターのシミュレータ



情報発信でみなさんを元気に

総務課 企画調査係 係員 今若 修子



健康は、元気な時は意識しないもので、不調になって初めて、その大切さがわかります。病院も同じで、「病気やけがをしたら行くところ」と思われ、元気な時は意識されていないかもしれません。

けれども、島大病院は、病気の原因や予防法を知り、健康を維持していただきたい、たとえ病気になった場合でも、安心して治療を受けていただきたいという思いから、様々なメディアを通じて普段から積極的に情報発信を行っています。

院内ミニ講座「島大病院ちょっと気になる健康講座」(毎週木曜日11:00～30分間、玄関ロビーで開催)は、開始から5年目で200回を超えました。病院職員が病気の治療法や健康法をポイントを絞って丁寧に説明しています。私は進行役を務めていますが、わかりやすくなる講座です。気軽にお立ち寄りください。

市民フォーラム(公開講座)は松江と出雲で年に2回ずつ開催し、当院の講師が島大病院の最新治療を紹介しています。毎回好評で、参加者からの質問が途切れません。みなさんの健康意識の高さを感じます。

出雲ケーブルビジョン番組「島大病院 ちょっと気になる健康講座」では、医療のタイムリーな話題を盛り込み、「知ってよかった」と視聴者に喜んでいただける内容になるよう、講師とTV局の担当者と打ち合わせをしています。

冊子・書籍やホームページでも当院の治療について詳しく知っていただけます。本年3月に新刊(裏表紙で紹介)を発行しました。ぜひ手にとってお読みください。

私どもは、最新の情報を、正確にわかりやすくお伝えすることをいつも心掛けています。お届けしている「健康講座」が“情報のサプリメント”として、みなさんの健康に役立つことを願っています。



院内ミニ講座
「ちょっと気になる健康講座」



市民フォーラムは大盛況!
人気の公開講座です。

皮膚科学講座教授 森田栄伸は、中国山地の山あいの無医村で生まれ育ち、幼いころから病気で苦しむ地域の人々を救いたいと考え、将来は故郷で地域医療に携わる夢を抱いていた。しかし、広島大学医学部在学中に医学研究の面白さに取りつかれ、卒後はアレルギー研究を活発に行っていた皮膚科学講座に所属、ドイツ・キール大学への留学を経て臨床研究の道を歩むようになった。

そして現在、島大病院で診療・研究・後進の指導に多忙を極める毎日だが、彼は時折、ふと故郷を思い出せば、過疎や荒廃が進む地域の人々の暮らしに思いを馳せるのであった。



診察する森田栄伸教授

3 話 連 載

第3回

未来へーさらなる挑戦

食物アレルギー治療の新たな展開

森田はこれまで食物アレルギーの臨床研究を精力的に続け、数々の成果を挙げてきた。小麦アレルギーの判定キット『 ω -5 (オメガファイブ) グリアジン』の開発、小麦アレルギー『茶のしずく事件』の原因究明、『牛肉アレルギー』の原因特定と抗がん薬『セツキシマブ』添付文書への注意事項記載など、その功績はどれほどの人を救ったか計り知れない。

しかし、森田には目指す次の目標があった。
『食物アレルギーの根治』である。

世界にはアレルギーに苦しみ、通常の食生活を送ることを制限されている人々がたくさんいる。すべての食物アレルギー患者とその家族、周囲の人々が何の心配もなく、食事を楽しみ、明るく過ごせる日は、自分が研究するだけではやって来ないだろう。自分の人生で達成できるかわからない壮大な夢かもしれない。

それでも、だからこそ、少しずつでも不可能を可能にしたい。

森田は決心した。自分の研究成果を活かし、行政・企業の協力を得て、社会全体を動かし、『食物アレルギーの根治』を目指していくことを。

アレルギーを引き起こさない小麦の開発

森田は、まず、アレルギーを含まない小麦を開発し、流通させる計画に着手した。小麦アレルギーの主要な原因は小麦に含まれる ω -5 グリアジンという蛋白が、小麦アレルギー患者の体内にある IgE 抗体と反応することにより引き起こされる。これを解決するには、現在、世界で流通している小麦を ω -5 グリアジンを含まない品種に変えていけばいい。

試行錯誤の結果、教室の河野研究員が、「京都大学農学部の遠藤教授が研究用小麦品種の膨大なコレクションを保有している」との情報を得て探索したところ、 ω -5 グリアジン欠失小麦株を見出した。

さらには、遠藤教授との共同研究にて ω -5 グリアジン欠失食用小麦の作成に成功したのだった。

そして森田は、この低アレルギー化小麦を島根県中山間地域研究センターで維持してもらい、臨床研究を重ねながら、生産は産業や特産品に恵まれない島根県西部の中山間地域で栽培してもらう契約にした。この低アレルギー化小麦を広く流通させることができれば、小麦アレルギーに罹患する人がいなくなるかもしれない。しかも、この小麦が商品化され、流通すれば、中国山地の中山間地域に産業が生まれ、住む人々も恩恵を受けられる。

低アレルギー化小麦を食卓へ

森田の願いと食品企業の利害も一致した。グリコ栄養食品がこの低アレルギー化小麦に興味を持ち、低アレルギー化小麦を用いた食品開発を進めることになった。種々の小麦食品への低アレルギー化小麦の使用が主流となれば、小麦アレルギー患者も安心して食事ができる。

森田は、「まだまだ小さな一歩かもしれないが、いずれ社会を変えていける」と確信している。

人々に役立つ研究をー

彼はこの他にも様々な共同研究に取り組み、その成果は少しずつ社会に波及している。「病気で苦しむ人を救いたい」「地域の人を助けたい」という幼いころからの願いは、今、地域との共同研究で大きく実を結びつつある。

森田が見出したひとすじの光は、いつしか光の束となって、患者や地域・社会の未来を照らす希望の光になっている。



ω -5 グリアジン欠失食用小麦の栽培 (益田市匹見町)





レスパイト入院をご存知ですか

あべ さとし
神経内科 安部 哲史



レスパイト (respite) とは「休息」という意味です。神経難病などにより、在宅介護中の患者さんを対象に医療保険で入院をお受けする制度です。介護疲れをリフレッシュして頂くことが目的です。「自分ばかり、息抜きだなんて申し訳ない。」とお感じになる介護者の方がおられますが、長く介護の継続が必要となる在宅療養の患者さんの場合、患者さんのみならず介護者の方々にも健康でお過ごし頂くことが重要です。

医師の立場としましては、入院による環境変化の中、なるべく患者さんの負担を少なくお迎えしたいという思いと、頂いた入院期間中に必要な検査を行い定期評価につなげたいという考えを持っております。

私自身に介護の経験はありませんが、子供を親に預ける際に「孫は来て良し、帰って良し」という本音を耳にしました。子守と介護とは異なるものではありませんが、家族として、つかず離れずの適切な距離を保つことは大事ではないかと感じています。



私のここだけの話

「私のストレス解消法」

やまうち みか
内分泌代謝内科 山内 美香



私のストレス解消法は、映画やドラマ等をみて泣くことです。実は泣くことは自律神経などに作用しリラックス効果があるとされます。私が初めて映画館で人目気にせず涙したのは「タイタニック」でした。研修医の時に阪神淡路大震災で被災後タフな日々を過ごしていた時、映画館でこれを見て泣いた後、ふっと心が軽くなったことを覚えています。今では映画に限らず、感動した時は躊躇せず涙することにしています。そして涙したい時に絶対泣ける映画等を常にスタンバイしており、今は NHK 大河直虎の「嫌われ政次の一生」の回です（納得いただける方も多しはす）。最近、予期せず涙させられたのは冬季オリンピックです。羽生選手や平野歩夢選手、小平選手の結果はもとより、その精神性にも激しく心を揺さぶられ涙しました。

皆さんも良い「涙タイム」を生活に取り入れてみてはいかがでしょうか。もし映画館で目と鼻の赤い私を見かけられた場合は、そっとしておいて下さい。

留学生の



自慢

病理部
イレーム アタレイ
カラセイ さん



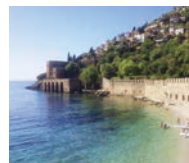
今回は**トルコ共和国**のアタレイさんに母国について紹介していただきました。

こんにちは。トルコから来たイレーム アタレイ カラセイです。トルコはヨーロッパとアジアの架け橋といわれるように、大陸の十字路であり、気候的にも地理的にも目を見張るほどの多様性に富んだ国です。

私の故郷アンタルヤはトルコの地中海沿岸にあり、長い海岸が美しく、古代から歴史的・建築的・考古学的にも有名な旧跡がたくさんあります。ダイビング、ゴルフができるリゾート地、壮大な景色が臨める高い山などもあります。

また、トルコ料理は世界で最も美味しいといわれる料理の一つです。ケバブや郷土料理のメゼ（前菜）、バクラヴァ（甘いパイストリー）のようなデザートが人気があります。トルコ人が一番大切にしている食事は朝食です。トルコの朝食とトルココーヒーをぜひ召し上がってみてください。

トルコには、ドキドキするような刺激的な場所がたくさんあり、どんな人でも多彩な活動が楽しめます。訪れたらきっと「トルコは美しい、興味が尽きない」と感じてもらえるでしょう。



アンタルヤの海岸



さまざまなメゼ(前菜)

イベントなどのお知らせ

島大病院 ちょっと気になる健康講座

島大病院には、専門知識を備えた、医師をはじめとする様々な職種の職員が医療・医事業務に携わっています。

当院に来院される患者さんや一般市民の方の健康づくりにすこしでもお役立ていただきたいとの思いから、健康や医療に関するミニ講座を定期的で開催しています。予約不要で途中参加・退出も自由です。どうぞお気軽にご参加ください。

実施内容は下記のとおりです。

対 象 患者さんほか一般市民 **場 所** 外来1階 外来待合ホール

時 間 11:00～11:30



回数	月 日	担 当	講 師	テーマ
第211回	4月 5日(木)	循環器内科	大内 武	もっと気になる心不全～心不全とは?～
第212回	4月12日(木)	薬 剤 部	北郷 真史	腎臓と薬のはなし
第213回	4月19日(木)	麻 酔 科	本岡 明浩	安心して手術をうけるために
第214回	4月26日(木)	がん患者・家族サポートセンター	今岡 佐織	がん治療と仕事の両立について
第215回	5月10日(木)	リハビリテーション部	今岡 圭	もっと気になる心不全～運動して体に良い効果～
第216回	5月17日(木)	地域医療連携センター	春日みゆき	病院の機能について(仮)
第217回	5月24日(木)	臨床研究センター	宇越 郁子 渡部 真紀 小谷麻衣子	創薬にかかわる治験の役割について(仮)
第218回	5月31日(木)	臨床遺伝診療部	鬼形 和道	「がん遺伝子パネル検査」とは?
第219回	6月 7日(木)	薬 剤 部	三浦 佳江	もっと気になる心不全～薬何飲んでるの?～

病院ボランティアコンサート開催予定

開催場所：附属病院1階外来待合ホール

5月11日(金)

出雲邦舞会

5月25日(金)

コーラスグループ「アルページュ」

6月15日(金)

出雲交響吹奏楽団 -緑-

6月29日(金)

島根大学 エレクトーン&ピアノサークル COLORS

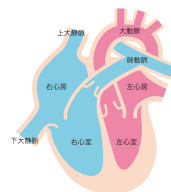


島大病院 ちょっと気になる健康講座 放送予定 (出雲ケーブルビジョン)

平成30年4月放送

循環器内科 助教 佐藤 寛大

放送内容：「心臓弁膜症と新しい治療法について」



病院玄関前にゼブラ棟(敷地内院外薬局)が完成しました!

冬の間の工事期間中、大変ご不便をおかけしましたが、2月に病院正面玄関前にゼブラ棟が完成し、敷地内院外薬局が3月1日オープンしました。

これまでの法律では、病院敷地内に薬局を置くことはできませんでしたが、規制緩和により可能になりましたので、患者さんの利便性を第一に考え、保険調剤薬局を開設することになりました。中・四国地方の国立大学病院では初めてのことです。

1階に「日本調剤 島大薬局」、同じフロアにバスの待合スペースを設けました。バスを待つ間もゆっくりくつろいでいただけます。2階は会議室となっています。

また、薬局の出入口付近に、屋根付の身障者用駐車場を増設しました。

ブラウンとアイボリーのしまうまのようなツートーンカラーが目印です。便利な薬局や待合スペースをどうぞご利用ください。



ニュース
NEWS & トピックス
TOPICS





島大病院 書籍のご紹介



第4弾

好評発売中！

島大病院・1年分の健康講座を
この1冊にまとめました。



about disease



about health



about hospital facility

島大病院

ちょっと気になる

健康講座4

Shimane University Hospital Lectures on Health

島根大学病院の
スタッフがわかり
やすく解説します。

病気、健康、
病院施設・
検査機器のはなし

- ◆ もの忘れと車の運転
- ◆ 知っていますか？ 冬の食中毒
- ◆ 歯周病と全身疾患 など

47
項目

監修・編集：島根大学医学部附属病院

発売：今井出版

A5判／並製本／154頁／オールカラー 定価：本体 926円＋税



編集後記

仕事を追え。仕事に追われるな。

初めて消化器内科 木下芳一 教授室をお訪ねしたとき、ドアに貼られたこの言葉が目飛び込んできました。その後お会いして、木下先生の明朗闊達なお人柄と独創的な思考、目にした言葉どおりのスピーディーなお仕事ぶりに大変感じ入ったことを覚えています。

木下先生は、これまで「しろうさぎ」編集長を長く務められ、歴代編集者に温かいご指導をいただきました。これからも「仕事を追え。仕事に追われるな。」を肝に銘じて、広報の仕事をしたいと思います。木下先生ありがとうございました。

次号は7月発行予定です。



消化器内科
木下芳一 教授



【編集者より】



島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ
についてのお問い合わせ先

(このQRコードで携帯から島根大学病院ホームページが見られます！)



医学部総務課 企画調査係 広報担当

☎ 0853-20-2019

✉ mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp

🌐 <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>